

目 次

神経病学	1
第1章 神経学的検査法と診断の基本 (宇塚雄次)	3
1-1 序 論	3
1-2 神経の基本構造と機能	4
1. 中枢神経系の解剖と機能	4
2. 末梢神経系の解剖と機能	8
1-3 神経疾患の検査	10
1. 患者基本情報と病歴	10
2. 全身状態の観察	11
3. 神経学的反射検査	12
1-4 特殊検査	15
1. 臨床病理学的検査	15
2. 脳脊髄液検査	15
3. 微生物学的検査, 免疫学的検査, 遺伝子検査等	17
4. 断層撮影	17
5. 電気生理学的検査	19
6. 薬物血中濃度	20
1-5 身体検査に基づく中枢病変の局在診断	21
1. 脳病変の局在診断	21
2. 脊髄の局在診断	22
3. 末梢神経障害に対する診断	23
4. DAMNIT-V 分類について	24
1-6 排尿の異常	24
1. 排尿に関わる神経生理学	24
2. 上位運動ニューロン障害	25
3. 下位運動ニューロン障害	25
第2章 脳疾患【アドバンスト】 (北川勝人)	26
2-1 犬と猫の代表的な脳疾患	26
1. 脳 炎	26
2. てんかん	28
3. 代謝性脳症	29
4. 水頭症	31
5. 脳腫瘍	32
6. 脳浮腫	33
2-2 動物におけるその他の脳障害	34
1. 脳血管障害	34

2. 大脳皮質壊死症	34
3. 日射病・熱射病, ヘモフィルス感染症, リステリア症	35
第3章 脊髄疾患【アドバンスト】 (原 康)	36
3-1 脊髄圧迫病変の分類	36
1. 病変の局在	36
2. 病変の性質	36
3-2 椎間板ヘルニア	36
3-3 椎間板脊椎炎	39
3-4 変性性脊髄症	40
3-5 線維軟骨塞栓症 (脊髄梗塞)	40
3-6 キアリ様奇形	41
3-7 脊髄空洞症	42
3-8 環椎軸椎不安定症	42
3-9 尾側頸椎脊髄症	43
3-10 変性性腰仙部狭窄症	44
3-11 二分脊椎	45
3-12 ステロイド反応性髄膜血管炎	46
3-13 肉芽腫性髄膜脳脊髄炎	46
3-14 進行性脊髄軟化症	47
第4章 末梢神経疾患【アドバンスト】 (神志那弘明)	48
4-1 顔面神経の障害	48
1. 特発性顔面神経麻痺	49
2. 中耳・内耳炎の波及による顔面神経麻痺	49
3. 腫瘍による神経障害	50
4. 甲状腺機能低下症による顔面神経麻痺	50
4-2 三叉神経の障害	50
1. 三叉神経炎 (三叉神経麻痺)	51
2. 神経鞘腫瘍による三叉神経障害	52
4-3 末梢性前庭障害	52
1. 特発性前庭障害	52
2. 中耳炎・内耳炎による末梢性前庭障害	53
3. 甲状腺機能低下症に伴う末梢性前庭障害	53
4. その他の末梢性前庭障害の原因	53
4-4 末梢神経鞘腫	54
4-5 その他の末梢神経疾患	55
1. 末梢神経損傷	55
2. 多発性根神経炎	56

血液免疫病学	59
第1章 造血機構と血液・免疫系疾患の検査 (久末正晴)	61
1-1 造血機構	61
1. 造血のメカニズム	61
2. 赤血球	63
3. 白血球	64
4. 血小板	66
5. 骨髄支持細胞	67
1-2 血液・免疫系疾患の検査	67
1. 全血球数算定	67
2. 血液塗抹	67
3. 骨髄検査	67
4. フローサイトメトリー検査	68
5. 遺伝子検査	68
第2章 貧血と赤血球増加症【アドバンスト】 (大和 修)	70
2-1 貧血	70
1. 貧血の定義	70
2. 貧血の分類	70
3. 貧血の症状	71
4. 貧血の検査	71
2-2 赤血球の形態変化	72
2-3 各種貧血の特徴	74
1. 失血性貧血	74
2. 溶血性貧血	74
3. 非再生性貧血	78
2-4 赤血球増加症	80
1. 相対的赤血球増加症	80
2. 絶対的赤血球増加症	80
3. 先天性メトヘモグロビン血症	80
第3章 白血球増加症と白血球減少症【アドバンスト】 (奥田 優)	82
3-1 好中球増加症と好中球減少症	82
1. 好中球の動態	82
2. 好中球増加症	83
3. 好中球減少症	84
3-2 好酸球増加症と好酸球減少症	85
1. 好酸球増加症	85

2. 好酸球減少症	85
3-3 単球増加症	86
3-4 リンパ球増加症とリンパ球減少症	86
1. リンパ球増加症	86
2. リンパ球減少症	87
第4章 出血・血栓性疾患【アドバンスト】 (丸山治彦)	89
4-1 生理的な止血機構	89
1. 止血機構	89
2. 一次止血	89
3. 二次止血	89
4. 線溶系	90
4-2 血小板・凝固線溶系検査	90
1. 血小板数	90
2. 出血時間	91
3. プロトロンビン時間	91
4. 活性化部分トロンボプラスチン時間	91
5. フィブリノーゲン/フィブリン分解産物	91
6. D-ダイマー	91
4-3 一次止血異常症	91
1. 血小板減少症	91
2. 血小板増加症	92
3. 血小板機能異常症	93
4. フォンヴィレブランド病	94
4-4 二次止血異常症	94
1. 先天性凝固因子欠損症	94
2. 後天性凝固因子欠損症	95
4-5 播種性血管内凝固	96
4-6 血栓塞栓症	97
第5章 免疫介在性血液疾患【アドバンスト】 (藤野泰人)	99
5-1 免疫介在性血液疾患の概要と主な疾患	99
1. 免疫介在性血球減少症の疾患分類	99
2. 免疫介在性血液疾患の病因分類	100
3. 免疫介在性溶血性貧血	100
4. 免疫介在性血小板減少症	104
5. 免疫介在性血液疾患の治療	106

第6章 リンパ系腫瘍【アドバンスト】	(辻本 元)	109
6-1 リンパ腫		109
6-2 リンパ性白血病		112
6-3 多発性骨髄腫		114
第7章 白血病と骨髄異形成症候群【アドバンスト】	(久末正晴)	117
7-1 急性骨髄性白血病 (AML)		117
7-2 骨髄異形成症候群 (MDS)		119
7-3 慢性骨髄増殖性疾患 (CMPD)		122
1. 慢性骨髄性白血病 (CML)		122
2. 好酸球増加症候群		123
3. 本態性血小板血症		123
4. 真性赤血球増加症		124
5. 骨髄線維症		124
6. 肥満細胞性白血病		125
皮膚病学		127
第1章 皮膚の構造と機能および皮膚疾患の症状	(西藤公司)	129
1-1 皮膚の構造と機能		129
1. 表皮		129
2. 皮膚基底膜		129
3. 皮膚付属器		129
4. 真皮		130
5. 皮下組織		130
6. 皮膚の機能		130
1-2 皮疹の分類		130
1. 原発疹		130
2. 続発疹		131
3. 特定の皮膚病変の呼称		132
第2章 皮膚疾患の診断法	(西藤公司)	133
2-1 皮膚科における問診		133
1. 主訴		133
2. シグナルメント		133
3. 飼育環境		133
4. 病歴		133
2-2 皮膚科学的検査の方法と解釈		134
1. ノミ取り櫛検査		134

2. ウッド灯検査	134
3. 被毛鏡検	134
4. 皮膚搔爬物鏡検	134
5. 皮膚押捺塗抹細胞診	134
6. 細菌・真菌培養	135
7. 皮内反応, 血清 IgE 検査	135
8. 皮膚生検	135
第3章 外部寄生虫性, 細菌性, 真菌性皮膚疾患【アドバンスト】	(加納 壘) 137
3-1 外部寄生虫性皮膚疾患	137
1. 犬疥癬	137
2. 猫疥癬	138
3. 耳ヒゼンダニ症	138
4. 毛包虫症	138
3-2 細菌性・真菌性皮膚疾患	139
1. 膿皮症	139
2. 皮膚糸状菌症	140
3. マラセチア皮膚炎	141
第4章 アレルギー性・免疫介在性皮膚疾患【アドバンスト】	(前田貞俊) 143
4-1 アレルギー性皮膚疾患	143
1. 犬のアトピー性皮膚炎	143
2. 猫のアトピー性皮膚炎	145
3. 食物アレルギー	146
4. ノミアレルギー性皮膚炎	147
4-2 免疫介在性皮膚疾患	148
1. 天疱瘡	148
2. エリテマトーデス	149
3. 多形紅斑	150
4. 中毒性表皮壊死症	151
5. 無菌性結節性脂肪織炎	151
第5章 角化異常症・先天性・内分泌性・腫瘍性皮膚疾患【アドバンスト】	153
5-1 角化異常症	(加納 壘) 153
1. 本態性脂漏症	153
2. 肉芽腫性脂腺炎	153
5-2 内分泌性皮膚疾患	(関口麻衣子) 154
1. クッシング症候群	154
2. 甲状腺機能低下症	156

3. エストロジェン過剰症	157
4. 脱毛症 X	158
5-3 腫瘍性皮膚疾患	(関口麻衣子) 159
1. 扁平上皮癌	159
2. 毛包系腫瘍 (毛包嚢胞, 毛包上皮腫, 漏斗部角化棘細胞腫, 毛母腫, 毛芽腫)	159
3. 犬の皮膚組織球腫	160
4. 皮膚肥満細胞腫	161
5. 悪性黒色腫 (メラノーマ)	161
6. 上皮向性リンパ腫	162
参考図書	164
正答と解説	165
索引	170